

菊川市公共施設個別施設計画 概要版

1 基本的事項

(1) 位置づけ・目的

菊川市公共施設等総合管理計画や菊川市公共施設個別施設計画（整備指針）に基づき、公共建築物を対象に個別施設ごとの具体的な対策内容と実施時期等を定める計画。公共施設の修繕や更新等を計画的に実施し、コストの縮減や財政負担の軽減につなげることを目的とする。

(2) 本計画以外の個別計画

小中学校、市営住宅は本計画で効果額の算定に含めるが、別途作成済みの長寿命化計画で管理。市立病院の他、道路、上下水道、公園等インフラ施設は本計画対象外。

(3) 施設の築年整備状況

公共建築物の多くは、昭和50年代に整備されており、現在保有している施設のうち、延床面積ベースで約40%がこの時期に集中して整備。

2 計画策定に向けた方針等

(1) 計画期間

計画期間は、総合管理計画、整備指針の計画期間である令和28年度まで。

(2) 対象施設

市が所有する公共建築物100施設（総延べ床面積146,764㎡）を対象。

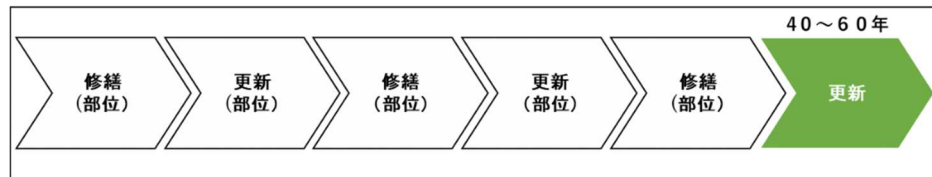
(3) 維持・更新コストの把握

計算シートを活用し、個別施設計画の計画期間における各施設の方向性を具体化し、建物情報と建物部位や設備の維持管理・更新等の単価設定により、計画期間におけるライフサイクルコストを算出（LCC計算シート）。

平成29年度から令和元年度は実績額、令和2年度から令和7年度は予算及び財政計画に配慮した金額、令和8年度以降は標準単価による概算金額によりコストを把握。

(4) 長寿命化の考え方

建物構造が鉄骨、ブロック、軽量鉄骨、木造の建築物、及び将来的に大規模な改修が見込まれない小規模施設では、建物の部位（屋根・外部）や主要な設備（受変電、通信・情報、空調、給排水衛生、消火）の計画的な修繕や更新により、ライフサイクルコストの縮減や長寿命化を図る。

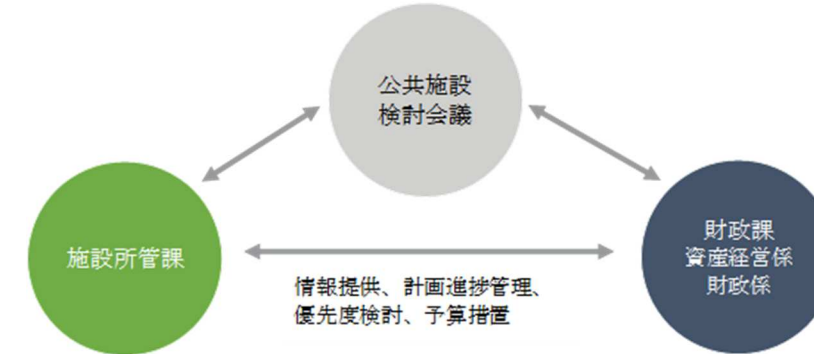


建物構造が鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリートの建物で整備指針の対象とする施設では建築後40年程度を目途に建物劣化度調査を行い、長寿命化の可能性や長寿命化改修工事の必要性を判断し、必要な場合には、長寿命化改修工事を予定。



(5) 継続的運用方針

各施設の所管課と情報共有する中で一体的にマネジメントを行う。

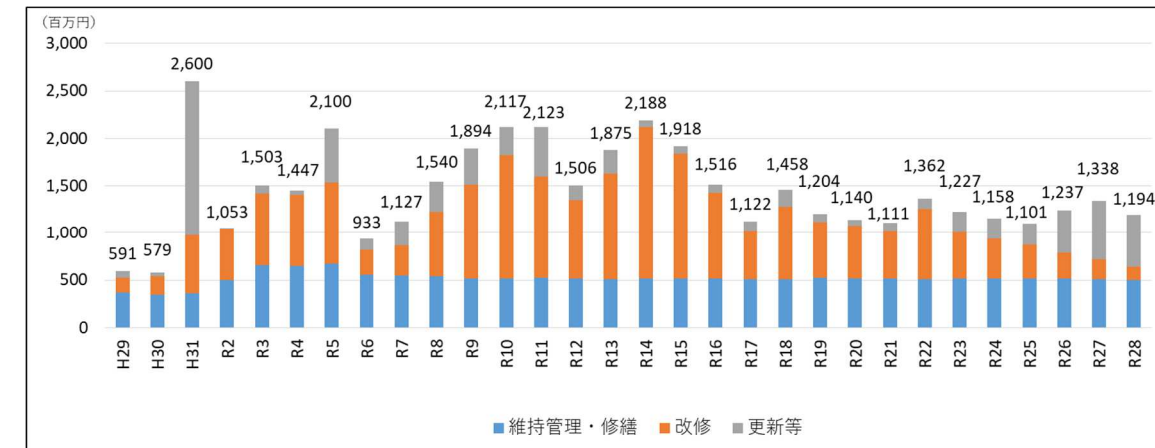


3 施設類型別の個別施設計画のまとめ

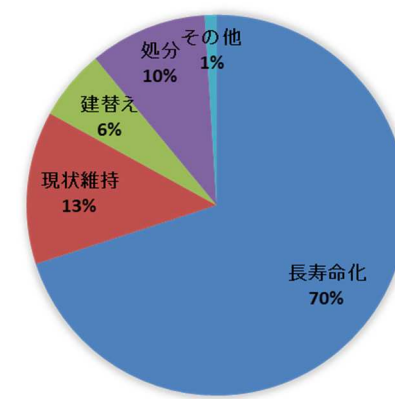
(1) 個別施設計画策定による効果額の算定

	単純更新(a)	LCC計算(b)	効果額(b-a)
10年間合計 (平成29年度から令和8年度)	281億円	135億円	△146億円
30年間合計 (平成29年度から令和28年度)	748億円	433億円	△315億円

(2) 年度別コストの推移



(3) 個別施設の計画状況



対策	施設例
長寿命化	市役所本庁舎、菊川市消防本部、市役所東館、文化会館アエル、中央公民館、菊川文庫、小笠図書館、市民総合体育館、総合保健福祉センター、小中学校、市営住宅 等
現状維持	水防倉庫、丹野グラウンド（管理棟） 等
建替え	堀之内体育館、消防団蔵置所の一部 等
処分	市役所北館、旧就業改善センター（菊川、小笠）、旧青葉台コミプラ施設 等